

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400290-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、入所者様に笑って楽しく過ごして頂けるよう、職員一同努めています。地域の方々の協力を得て、催し等に参加する事で、地域交流を図っています。入居者様一人ひとりの思いを尊重し、出来る事は見守りを行い、出来ない事は支援する事で自立して頂ける様努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームはこだて乃木」は3階建の1～2階にある2ユニットのグループホームである。バス停から近くの住宅地に立地し、近隣に公園、乃木神社や保育園があり、園児の来訪で交流を楽しんでいる。町内会の行事に継続して参加し、町内から手作りの差し入れもある。保育園のほか、今後は小学校に働きかけて子どもとの交流を増やし、住民との交流の場を更に広げたいと積極的に進めている。運営推進会議と同日に避難訓練を実施し委員の参加を得ている。また災害時の相互協力を近隣周辺に呼びかけて、地域との協力関係で安全な環境整備も進めている。管理者は本部と相談しながら職員の資質向上のため、勤務年数に応じた研修会や外部研修の受講を計画的に行っている。全職員が会議に参加しており、現場の意向を取り入れて職員と一体になって真摯に取り組んでいる。昨年は職員間で理念を見直し、「共に」の暮らしを実践している。本人・家族の意向に沿って担当職員のモニタリングと計画作成担当者のアセスメントを基に介護計画を作成し、目標に沿って詳細に日々の記録を行い見直しにつなげている。月2回の地域ボランティアのストレッチ体操や実習生を受け入れて生活の活性化を図っている。馴染みの関係の継続や少数での外出を交代で行い、排泄の自立支援など、個別に沿った支援を大切に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(1階花*花アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年理念についての見直しを行い、「共に学び・共に歩み・日々寄り添う」へ変更。職員全員が同じ思いで日々実践できるよう取り組んでいます。ホーム内に理念を掲示しています。	職員間で理念の見直しを行い、基本的な文言のほか、「地域交流を深め安心した暮らしを提供します」と加えて新しい理念を作成している。勉強会や行事計画の際に理念に触れて確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での新年会、敬老会、夏祭り等に参加させて頂き、またホームでの行事に参加して頂けるよう案内をしたりと交流を深めています。	昨年は町内会夏祭りの抽選会で利用者が当選し、住民と一緒に喜ぶ機会になった。保育園児が来訪し、歌などの披露やプレゼントもあり、楽しい交流になっている。年に数回は「昼食会」を事業所で行い、住民に参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事の際は、町内会の回覧板に載せて頂いています。地域の人々と交流を多く持つことにより、理解を深めて頂けるよう取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での活動状況や行事をご家族様、町内会役員、市町村担当者、地域包括支援センター職員に報告し、要望、助言等を聞き、話し合い、サービスの向上に努めています。	会議で各報告や外部評価結果を報告し、避難訓練の際に消防署員の参加も得て避難誘導を確認している。家族に通信で会議開催日を案内し、来訪時に呼びかけているが1~2名の参加になっている。全家族に議事録とサービス評価票の結果を送付している。	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、意見の収集から会議の話題にすることで、家族の関心が高まり、参加につながるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方と日頃より連絡を取り、サービスの取り組みを伝えながら相談をし、アドバイスを頂いたり、なんでも相談できるよう努めています。	書類報告の段階で、不明な点があれば、市に出向いて担当者に相談したり、入居条件を確認している。市主催の研修会に参加してケアに活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人が作成した「身体拘束等マニュアル」をいつでも閲覧出来るようにしています。身体拘束に対し、認識を高め、研修会や勉強会を通じて、身体拘束について理解を深め、サービスの質の向上を目指しています。	法人共通のマニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」を年に2回以上は研修会などで読み上げて理解を深めている。事例を取り上げて拘束につながりやすい行為を日々確認し、拘束をしないケアへの意識を高めている。日中は玄関を開錠し、利用者の意向を聞いて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人が作成した「虐待防止マニュアル」をいつでも閲覧できるようにしています。また、勉強会や研修会参加にて、学ぶ機会を持ち、理解を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様がいるので、勉強会や研修会への参加にて成年後見についての知識習得に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や入居後も都度説明しています。また改定があった際もご家族様に文章で説明、納得して頂ける様努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の相談があった場合は、早急に話し合いを行い解決・改善出来るよう努めています。	3か月毎に各ユニットで通信を発行し、他毎月お便りを作成、各家族へ郵送している。家族の来訪時に当日勤務の職員が対応し、率直な意見を得て職員間で内容を把握しているが、記録化が十分ではない。	家族の些細な思いも把握できるように、個別毎に記録し、職員の共有化でケアに反映されるよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行っている。また、日々の会話や会議内にて職員からの意見を聞き出せるよう努めている。	月1回のユニット会議やカンファレンスに全職員が参加し、職員の意見を現場に活かしている。管理者は年に1~2回は個人面談を行い、業務の中でも様子を見て個別に聞いている。利用者担当など、職員は各担当を持ち業務を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務姿勢や努力を評価し、向上心を持って働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた研修会を定期的開催しています。また、外部研修があった際は、職員に知らせ参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会や勉強会に参加し、同業者と交流が図れるよう努めていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様とゆっくり時間をかけてお話しし、その中で不安や要望を聞き出し解消するよう努め、以前の生活に近づけるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に、困っている事や不安等を聞き出せるよう努めています。また、入居後は来訪時等に話をする事で信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、事前の話し合いの中でどのような支援が必要かを考え、対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食は一緒に食べています。他、一緒にテレビを見たり、余暇活動行う時間を作り、暮らしを共にする関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者様の様子を記載したお便りを作成し、御家族様へ郵送しています。また、御家族様来訪時は、御本人様の近況を伝えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が定期的に来訪されている。その際は、職員も間に入りお話しをしたり、いつでも来やすい環境作りに努めています。	所属していた劇団仲間や友人の来訪があり、頻繁に来られる方もいる。利用者全員分のおはぎを作って来訪しお裾分けもある。家族と馴染みの店で外食をしたり、野球の好きな方には家族が同行して野球観戦に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が関わりを持てるよう、職員が間に入り支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス終了後関わりを必要とされているケースはなく、サービス終了後も関わりを必要としている場合は、支援していきたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で思いを聞き出せるよう努め、聞き出した情報は職員全員で共有するようにしています。また、困難な場合は、表情や仕草にて思いを把握できるよう努めています。	会話の中で希望を聞き出し、難しい場合は目の表情や口元から思いを把握している。センター方式シートの使用を進めており、今後は定期的な見直しで情報の蓄積を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族様から情報収集するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、見守りを行い、状況を確認している。また、職員間で情報交換・共有をすることで、一人ひとりの状況を把握出来るよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施し、話し合いを行っています。また、必要に応じて話し合いを行い、介護計画を作成している。御本人や御家族様・関係者からの意見を聞き出せるよう努めています。	担当職員のモニタリングと計画作成担当者のアセスメントを基にカンファレンスで評価し、家族の意向を確認して3か月毎に更新計画を作成している。介護計画の番号で、変化などは青文字にし、目標に沿って詳細に日々の記録を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録に記入。特変があった際は、色を変えて記入するようにしている。その記録を基に、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない、状況に応じて柔軟な対応出来る様日々話し合いを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回ボランティアの方が来て下さり、体操を行ってくれている。他、近隣の保育園や学童保育にも働きかけを行い、来訪してもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・御家族様が希望する医療機関へ受診しています。また、飯田内科クリニックと医療連携を結んでおり、月2回の往診。緊急時は、24時間体制で支援してもらっています。	協力医療機関の訪問診療のほか、専門的な他科受診には、ほぼ職員が同行している。家族支援の通院時に健康情報を渡している。受診の内容を一覧表にして記載しているが、今後は個別に記録し、時系列でわかりやすい方法を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日、看護師が来訪して下さるので、状況を報告したり相談しています。変化があった際は、電話連絡し状況を報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は御家族様に連絡し、病院の方には情報提供をしています。入院中もお見舞いへ行き、状況を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については、入居の契約の際に話をさせて頂いています。もしその時が訪れた場合には、もう一度御家族様と話し合いを行い入居者様にとって最良の方法を医療機関、職員も交え、考え支援しております。	利用開始時に重度化対応指針や看取りの考えを説明し、常時医療行為が必要な場合は対応が難しいと伝えている。状態の変化で家族、主治医と方針を確認し、可能な限り対応している。現在見取りについての具体的な方針を本部と検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、救命講習を受けるなど対応出来るように備えています。毎日の申し送りや会議でも話し合うようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練(年2回)を地域住民のご協力を得て、消防職員立会いのもと(年1回)行っています。	運営推進会議と同日に避難訓練を行い、委員が誘導後の見守りで参加している。夜間を想定した火災訓練は消防署立会いで実施しているが、地震などは今後の課題になっている。職員の救急救命訓練の受講を予定している。	今後は、事業所内で地震・水害などを想定して安全の確認や、ケア別の対応について話し合うことを期待したい。また災害備蓄品の整備を本部と検討し、早急な完備を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、プライバシーの保護、言葉使い、言葉掛けに注意しています。	法人や内部で接遇研修を行っている。命令口調や気になる言葉遣いがある時はその都度注意を促し、会議で対応を検討している。申し送りは離れた場所で行い、イニシャルで伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意志で物事を決定できる様、声掛けや見守りを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせ、希望などをお聞きし、その人らしく過ごせる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に爪切りやうぶ毛剃り、訪問美容室来訪にて散髪の実施。髪染を希望する方には髪染も行ってもらっています。また毎日身に付けている洋服など汚れていないか確認を行っています。		

ふれあいの里 グループホーム はこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく会話をしながら食事をしています。摂取方法や栄養バランスを考慮し食事を提供しています。食器洗いやお盆拭き等出来る方には声掛けにてお手伝いして頂いています。	月例会議などで、本部の給食担当者に利用者の好みを伝えている。誕生日には好きな物を聞いたり、普段好んで食べる献立にしている。行事がない月は昼食会を催して食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の管理、記録を行い、一人ひとり支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しています。その際、口腔内の状況を確認しています。介助が必要な方は、介助にて行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレで排泄が出来るよう声掛けや排泄リズムを把握して介助するように心掛けています。	各ユニット1～2名は自立しているが、全員の排泄を記録して昼夜共にトイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者がびっくりしないように声かけに配慮してトイレに誘導している。職員間で排泄の確認をする時は、紙に書いて伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者が排泄された際には、排便の有無の確認を行っています。また、排便のリズムを把握し便秘気味の入居者様には主治医の指示に従って、下剤服用にて対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その人のニーズ、その日の体調に合わせて入浴しています。週2回以上、曜日等は決めず入浴して頂いております。	毎日、午後の時間帯で各利用者が週2回入浴できるように支援している。入浴を拒否する方も月8回は入浴できるように配慮している。希望に応じて、異性介助を嫌がる方は同性介助で、湯船を嫌がる方はシャワー浴で対応し、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った時間に起床、就寝をして頂いております。時間は特に決めず、入居者様のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用等把握できるよう努めています。薬服用の際は、職員2名以上にて薬の氏名の確認を行い、配薬表に記入するなど誤薬防止に努めております。また、服用されるまで見守り・確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた行事や誕生日会を実施しています。それ以外にも入居者様の好みを取り入れた昼食会を行い、目先の変わった物を提供し楽しんで頂く工夫をしております。		

ふれあいの里 グループホーム はこだて乃木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 花*花)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春にお花見、夏は夏祭り等に行事として出掛けています。天気の良い日は近所を散歩し近所の方に合うと挨拶を交わしたりしています。	近隣を散歩して庭を見せて頂いたり、公園などに車椅子の方も一緒に出かけている。玄関先で日光浴をする事もある。スーパーに買い物に出かけたり、外出行事で花見や地域の夏祭り、神社のお祭りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、少額の金銭を持っている方もいますが、基本的に、当ホームでは金銭の預かりはしており、必要に応じて立替にて購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、手紙のやり取りを希望される方がいる際は、その都度対応させて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同で使用されるトイレ、浴室等にはわかりやすい様に表示をしています。各居室前には、各自それぞれの表札をかけています。また、玄関やリビングには季節に合わせた飾り付けを行っています。湿度や温度設定にも注意し、心地よく過ごせる様努めています。	対面式のキッチンを備えた食堂と、畳の小上がりがある広々とした居間に分かれている。居間には、利用者がゆっくり休めるように大きなソファを配置し、雛人形や雪だるまなど季節感のある装飾をしている。節分の写真は、鬼の角を意識した切り抜きにするなど工夫した飾りつけになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、リビングの席は、入居者様同士が過ごしやすい様に工夫し、思い思いに過ごせるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入居者様・御家族様の希望を取り入れ、レイアウトしています。また持ち込むものは、使い慣れた物を持ち込んで頂くよう入居前の面談にてお話しています。	各居室にクローゼットが備え付けられている。机や椅子、馴染みの縫いぐるみや小物類を持ち込んで、落ち着いて過ごせるように工夫している。利用者の身体状況に合わせて、ベッドや布団を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂場に手すりを設置。また障害になるような物を置かないようにし、安心、安全に自立した生活を過ごして頂ける様にしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400290		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームはこだて乃木		
所在地	北海道函館市乃木町4番32号		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、入居者様が、楽しく、穏やかに、笑顔で過ごして頂けるよう、職員一同努めています。地域の方々との交流を大切に、夏祭りや敬老会等の行事に参加し、色々なご協力を頂いております。
日々、入居者様一人一人のペースを尊重し、職員が声掛けや見守りを行いながら、自立への支援に努め、寄り添いながら生き生きと過ごして頂けるよう、取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0191400290-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(2階あおぞらアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体が同じ方向で実践できる様、ホーム内の数ヶ所に理念を掲げ、日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での行事に参加させて頂いたり、ホームでの昼食会へ参加して下さったりと交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域でのイベントに参加させて頂いたり、ホームでのイベント時は、お知らせをして、地域の人々との交流を多く持つ事で理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内での活動状況、行事などを報告し、運営推進会議で出された意見・要望・助言などを会議で話し合い、職員全員が意識を持って取り組むよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当の方々と日頃より連携をとり、サービスの取り組みを伝えたり、市町村で行われる研修には積極的に参加している。また、何でも相談できる関係作りに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して、職員全員が認識を高め、積極的に内部研修・外部研修・勉強会に参加し、理解を深め、サービスの質を高めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様のご家族に来訪時や毎月のお便りで、ご本人様の状況を伝えていきます。また、研修会の参加、勉強会の実施、職員同士での気付きや注意できる関係作りをして見過ごされる事のないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要な制度を利用する方が増えていくと考えられるので、職員全員が制度について理解できる様、研修会などに参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、ご家族様に文書で説明し、納得いただけるまで話をしています。入居後、必要に応じて説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口の設置、苦情相談があった場合は、会議の中で話し合い、共有しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中でどんな事でも発言し、話し合える環境作りをしています。また、管理者は随時面接し、意見を聞く場を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況を把握し、勤務に対する姿勢や努力を評価できる様努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や年数回行う内部研修への参加、月1回の勉強会の実施など、職員のトレーニングに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や講演会に参加し、他施設との交流、意見交換が図れるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と、ゆっくり時間をかけてお話しし、その中で不安や要望を聞き入れ、理解する様努め、以前の生活に近づけるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時に困っている事や不安などを聞き出し、入居後は、来訪時やお手紙にて要望などを聞き、話し合いを重ねる事で信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴等を聞き、まず、どんな支援が必要なのかを考えて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は、一緒に食べる様心掛けています。他に、一緒にテレビを見ておしゃべりしたり、余暇活動を通して暮らしを共にする関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者様の様子を記載したお便りを作成、ご家族様へ郵送しています。他、ご家族様来訪時には、ご本人様の近況を伝える様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が定期的に来訪される際には、職員も間に入り、お話をしたり等、いつでも来やすい環境作りに努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、居室で過ごされている入居者様には、声掛けを行い、リビングに来て頂く等、無理のない範囲で、声掛けを行っています。時々、入居者様が他入居者様の居室へ遊びに行くなどしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、サービス終了後、関わり合いはないが、サービス終了後、関わりを必要としている場合、必要に応じて支援提供していきたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、ご本人様の思いを聞き、また、職員同士の情報を共有し、ご本人様の思いや希望に沿うよう、支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント表から、ご本人様を把握し、ご家族様からの情報を得る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の見守りの中で、状況を確認し、職員間の情報交換する事で、心身状態の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の希望、意向をよく聞き、カンファレンスで話し合い、現状にした介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常や、いつもと違った事柄は介護日誌に詳しく記入、申し送りや職員会議などで話し合い、より良い介護に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所間で助け合い、状況に応じた支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回、ストレッチ体操の先生がボランティアで来て下さり、その他にもボランティアの方が年数回来て下さります。避難訓練などは消防の方が協力して下さいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様が希望する医療連携に受診しています。主治医の助言、指導のもと連携し、適切な医療を受けられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、毎週火曜日に、健康管理でホームに来て下さいます。24時間、いつでも対応して下さいます。看護師と連携を取って、来訪して頂いたり、指示を仰ぎます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には、すぐにご家族に連絡を取ります。病院にも情報を提供し、連絡をとり、早期に退院できるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族様やご本人様に意向を聞き、確認し、職員も一緒に考え、医療機関にも相談し、最良の方法で支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームの事務所に、事故発生時や急変の時の為に、マニュアルを作成して、提示しています。また、防災訓練や救命講習も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を受け、年2回程、入居者様、ご家族様、地域の方々様と協力して頂き、体制を築いています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様へは、一人一人の人格を尊重し、言葉の掛け方に注意しています。さりげないケアや、自己決定しやすい声掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合で、入居者様の思いや、希望を妨げないように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様、一人一人のペースを大切にし、職員の都合ではなく、希望に沿って支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により、好みの衣服を伺い、職員が代わりに購入して、おしゃれして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りやジャガイモの皮むき等、入居者様が無理なく手伝って頂ける様にしています。食事を楽しんで頂けるようにテレビを消し、職員と会話をしながら食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は入居者様の記録やチェック表に記載し、職員全員が把握できるようにしています。一人ひとりの状態を観察し、お好みの飲み物などを提供するように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声掛けを行っています。一人ひとりの力に応じ、自力で行えない方は介助にて口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や排泄の間隔を考え、トイレ誘導し、失敗された時には、自尊心を傷つけないように声掛けを工夫しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその影響の理解に努め、入居者様一人ひとりの排便のリズムを把握し、便秘気味の場合は医療連携に連絡し、対応させて頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日にはこだわらず、週2回以上入浴できるようにしています。その日の体調を考慮し、一人ひとりに合わせた入浴方法で支援しています。拒否された方には、声掛けの工夫をし、入浴して頂けるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にこだわらず、入居者様一人ひとりの生活リズムに合わせて声掛けを行い、休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示のもと、服薬介助を行っています。薬剤師の情報を通じ、用法・用量・副作用を職員全員が把握しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの力を引き出せるような家事仕事や趣味などを分担し、行える様努めています。また、行事や昼食会などを行い、楽しんで頂けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 あおぞら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるよう、その季節ごとに外出する行事を計画し、設けています。天気の良い日には声掛けを行い、散歩にも出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自分で金銭管理のできる方はおらず、入居者様の必要時、事業所が物品等を購入しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、職員の付き添いのもと、電話をかけて頂き、手紙の際は、ご本人様へ手渡し、または代読を行っております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同に使用されているトイレやお風呂場などには、わかりやすいように表示しています。また、各居室の前には、表札をかけております。季節に合った飾りつけも行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、フロアの席は、気の合った入居者様同士自由に過ごしやすいように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の希望やご家族様と話し合い、使い慣れた物やご本人様の望む物を受け入れ、居心地よく過ごせて頂ける様に工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレなどには手すりが設置されており、障害物になるような物は置かないよう、安心と安全に配慮しています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームはこだて乃木

作成日：平成 27年 3月 16日

市町村受理日：平成 27年 3月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今後は、事業所内で地震・水害などを想定して安全の確認や、ケア別の対応について話し合うことを期待したい。また、災害備蓄品の整備を本部と検討し、早急な完備を期待したい。	災害別の話し合いの実施 災害備蓄品の設置	火災以外の災害を想定した話し合いを行う。災害備蓄品は本社と早急に相談し、完備していく。	1年間
2	4	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、意見の収集から会議の話題にすることで、家族の関心が高まり、参加につながるような工夫を期待したい。	関心が高まるようなテーマづくりを行う。	会議お知らせの際は、テーマもお知らせし、日々の会話の中から関心を持ってもらえるテーマを模索していく。	1年間
3	10	家族の些細な想いも把握出来るように、個別毎に記録し、職員の共有化でケアに反映されるよう期待したい。	情報の共有化	個別毎の記録を作成し、情報を共有していく。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。